

## IV 学校研究

### 1 研究主題

「伝え合う力」を育てる学習活動の創造〈第4年次〉  
—伝え合いをひろげよう—

### 2 主題設定の理由

「伝え合う力」を主題に掲げて3年が経過した。自分の考えを持つ段階は豊かになっており、質の高い伝え合いを通し、学び合いが成立するようになっている。しかし、授業中の伝え合いにおいて、のびのびと自分を出せない子どももいる。また、日常のあいさつについても、「自分からあいさつする子どもが少ない」「伝わらないあいさつだ」という反省がなされた。さらに、これまで国語科を中心にして研究が行われてきたが、今年度は伝え合いを他教科においても意識して取り組み、友達同士で学び合う喜びをより実感できるようにしたいという意見も出された。

よって、今年度も主題を継続し、国語科で培った力が他教科で生かされ、他教科で培った力が国語科で生かされるように、学校生活全体を通し、伝え合いをひろげていけるようにしたい。

### 3 めざす子ども像

学校研究の方向性を決めるにあたり、まず眼前の子どもを見ようということからはじめた。その結果、つぎのように教師は子どもの実態を捉えた。

- ・話したい、書きたいという内容は持っているが表現しきれない感じがする。
- ・同じ子どもの発言になりやすい。／クラブなどで、やりたいことが出てこない。
- ・挨拶が伝わらない。／発言の声や挨拶の声が小さいのではないか。
- ・語尾まではっきり話さない。／物事を理由付けて説明する力が足りない。
- ・友達の考えに対して感じたことを言ったり、質問したりするという習慣がない。
- ・感情（喜怒哀楽）を表に出すことが苦手である。／聴き方に問題がある。

○新任式などの代表あいさつの言葉は大変立派である。

○挙手しようという意欲は出てきている。

○自分のことや気持ちを素直に書き表す児童が多い。

○一生懸命な教師の姿や友達のがんばりを受けとめてくれる子どもたちである。

このような実態をふまえ、めざす子ども像を次のように設定した。

〈めざす子ども像〉

- (1) 課題や友達の考えに対し、自分の考えを持つ子ども
- (2) 相手の考えをよく聴いて、感じたことを伝え合う子ども
- (3) 学習をふり返ることで、自分に自信を持てる子ども

国語科の改善の

基本方針

・互いの立場や考えを尊重して言葉で伝え合う能力を育成する

・自分の考えを持ち論理的に意見を述べる能力

・目的や場面に応じて適切に表現する能力を育てることを重視

教師がとらえた伝え合う能力の実態

自分を持つ

伝え合う

ふり返る

の3つの視点で

#### 4 研究の仮説

	手立て	めざす子ども像	
仮説1	学習財や課題との出会いを工夫し、一人一人の考えの良さを認め合えば	自分の考えを持とうとする子どもになるのではないか。	自分を持つための仮説1
仮説2	教師は子どもが聴きたくなるような話をするよう心がけるとともに、何でも話せる学級を作り、今、自分がどう感じているかを表現する機会を多くの子どもに与えれば	相手の話をよく聴いて、感じたことを伝え合う子どもになるのではないか。	伝え合うための仮説2
仮説3	伝え合いにかかわるふり返りを位置づけ、一人ひとりが自分の伝え合いのめあてと成果を明らかにしながら学習を進めれば	自分の成長を実感でき、自分に自信を持つ子どもになるのではないか	ふり返るための仮説3

#### 5 研究の領域

今年度は、国語科に限らずいろいろな分野で実践してみたい。

研究が深まらないのではという懸念がある。が、「教育のはじめにあるのは教育内容ではなく、学習者にある。教育の内容をいかに伝達するかという発想ではなく、学習者の実態から学習活動を計画する。」(小川雅子『国語教育の根幹』p.9)という考え方に立ち、授業を創造していけば、分野は別々でも、眼前の子どもの変容を願うことでは一致した研究が進められるのではないかと考える。

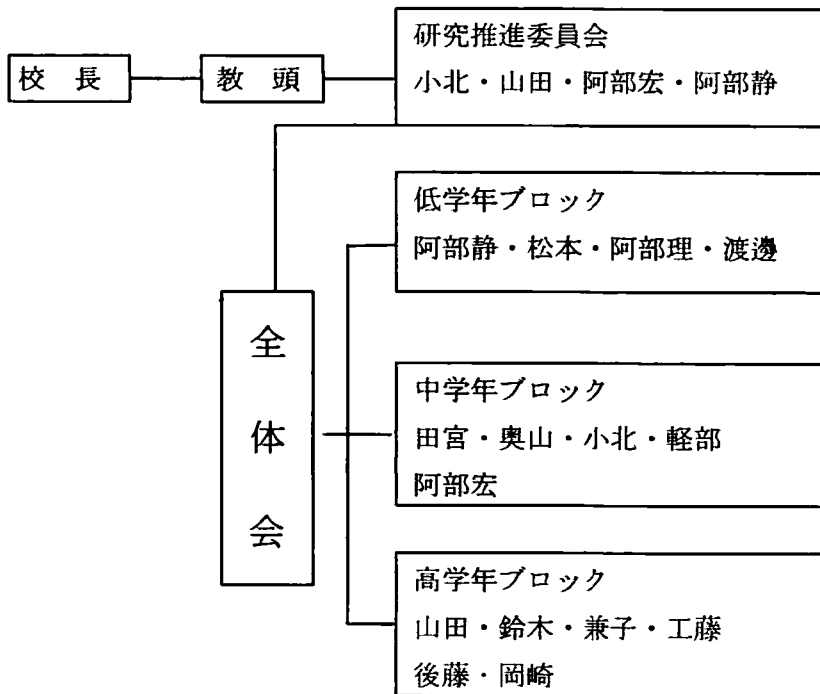
国語科に限らず  
いろいろな分野  
で実践する

#### 6 研究の内容

子どもの実態から学習活動を計画するという視点に立ち、「伝え合う力」を育む授業・日常の学級経営のあり方を探る。〇〇の子どもたちに対して、□□の学習活動を計画した結果が△△だったというように、事後の研究会で話し合いを深めながら、指導技術や指導方法だけの追究にならぬよう、子どもを中心に据えた研究を進めていきたい。

- 子どもを見るために、学習の記録を取る
- 「伝え合う」力を育む授業の提案
- 指導に生きる評価（ふり返り）の実践

## 7 研究の組織



ブロックをひとつの校  
内の活動単位として位  
置づけ、校内研究の活  
性化を図る

## 8 研究計画

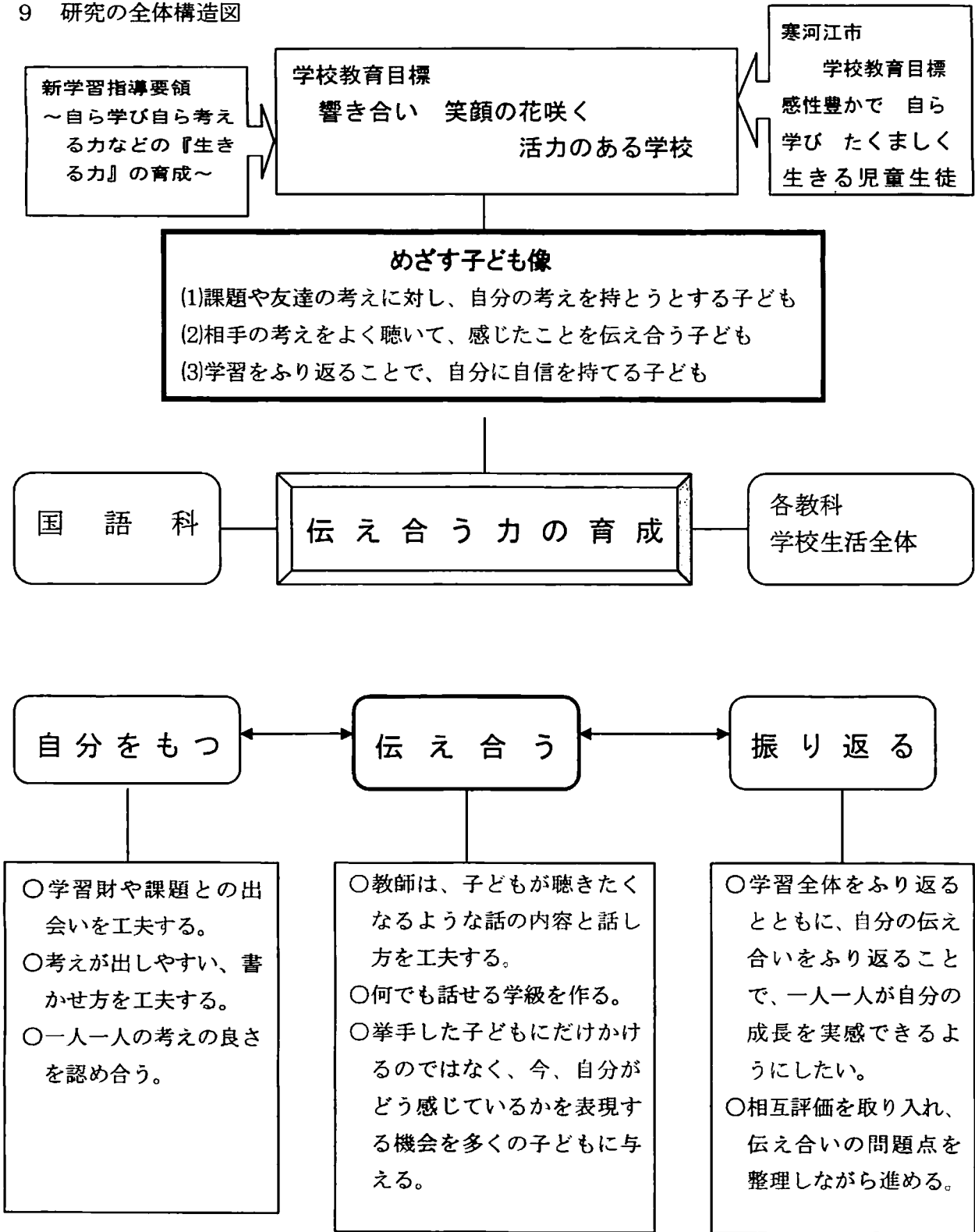
月	研究内容
4	研究の方向性、内容の確認・共通理解
5	授業研究会①（中学年）
6	ブロック研究会②（中学年）全体研究会③④（低・高学年）
7	ブロック研究会⑤⑥（低学年・高学年）授業研究会の総括
8	研修会
9	ブロック研究会⑦（低学年）
10	ブロック研究会⑧⑨⑩（低・中・高学年）
11	全体研究会⑪⑫（中・高学年）ブロック研究会⑬
12	全体研修会（授業研究会の総括）
1	全体研修会（来年度の研究の方向性）
2	公開研究会報告 研究紀要の完成

学校経営の核とし  
ての授業研究の重  
視

- 全体研究会の指導案は正案で1週間前に配付する。
- 講師招聘は事務所に2回、要請する。
- 授業の記録、話し合いの記録はブロックで行う。
- 写真（紀要・記録用）・・・阿部宏

授業の視点が明確  
になるような事後研  
究会の運営

9 研究の全体構造図



書きながら考え、音声言語表現を支える